

Q-Yacht Times

— 努力に勝る才能はない —

特別号



九州インカレ団体戦

10月5日(金)から10月8日(月)にかけて、福岡市ヨットハーバーにて、九州学生ヨット選手権大会(団体戦)が開催されました。6日は台風に見舞われ中止となりましたが、7、8日は気持ちの良い秋晴れの中、中風でのレースが展開され、全部で6レースを消化しました。最終結果としては、国際470級が3艇とも上位フィニッシュをして団体2位、国際スナイプ級では1～3位を独占する形で団体優勝となりました。完全優勝は逃したものの、総合では見事優勝を勝ち取りました。今大会では、九州におけるチームの実力を知り、自信につなげ、さらにレベルアップをするために課題を見つけることができた収穫の多い大会となったように思います。全日本インカレまで残りわずかですが、課題を克服して、今大会で得られた勢いをもって、全国で実力を出し切ってほしいです。(川端)



決起会

10月24日(水)に新たな試みで、亭々舎にて決起会が行われました。余興でひと笑いした後は、レギュラー選手がヨットに対するアツい想いや目標を語り、スタッフリーダーが全日本インカレに向けての意気込みを発表しました。また、サプライズゲストとして牧野先輩(H29年卒)がSkypeで電話をしてくださり、貴重なアドバイスをいただきました。さらに平畑監督(H1年卒)も会場にお越しください、激励のお言葉をいただきました。御礼申し上げます。会の最後は亭々舎に全員の声がかきわたるエールで締め、部員が心一つになった良い会になりました。全日本インカレでは、サポートメンバーも最後まで選手を信じ、チーム一丸となって九大魂を全国に見せつけたと思います。(濱田)



「いざ全日本インカレへ」

10月31日(水)から11月4日(月)にかけて、いよいよ全日本インカレ団体戦が始まります。今年の開催地は愛知県蒲郡市豊田自動織機海陽ヨットハーバーです。今大会に向けてのレギュラー選手の意気込み、そして九大の強みである日本一のサポート体制をご紹介します。

《470レギュラー》

リーダー:鄭

いよいよ全日本インカレです。1年間目標としてきたレースが始まります。

全日本インカレは今まで経験したレースよりも艇数が多く、カットレースがないため、大きく叩かないことを意識したレース展開が必要となります。また、総合優勝のためには各クラスでも上位を占めなければなりません。しかし、今から考えるべきことは「やるべきことをやる」であり、その結果成績がついてくると考えています。レース本番を見据えた練習をすること、レースで練習通りの実力を出し切ることを目標に、470チーム全員で戦ってまいります。

《広報班》

リーダー:岩原

広報班の最も重要な役割は、九大ヨット部を応援してくださっている全ての方に、全日本インカレでの様子やレース成績を伝えることです。主な仕事は、メールやSNSでのレース結果速報や、大会会場で撮った写真のホームページ掲載です。また、大会期間中も毎日ブログを更新します。九大ヨット部の活躍を楽しみにしてくださっている全国の皆様に、蒲郡の雰囲気リアルに伝わるような臨場感のある広報を目指していきます。



《スナイプレギュラー》

リーダー:橋口

今年のスナイプチームは実力が拮抗しており、代の始めはレギュラー争いから始まりました。最後になるまでレギュラーは決まらなかったのですが、その分、最後まで切磋琢磨した環境のもと練習に取り組んできました。

全日本インカレではたとえどんな困難が起きても決して挫けることなく、自分の実力を出すことを考え続けたいと思います。そのことが出来れば必ず結果はついてくるものだと信じて、インカレに向けて最終調整を行っていきます。九大の総合優勝にスナイプチームが貢献できるよう全力でハイクアウトしますので応援のほどよろしくお願いします！



《支援艇》

リーダー:小田・高島

支援艇は備品の受け渡しや乗員の交代・申告の確認・風向や潮などの情報伝達など行います。OBコーチも乗ってくださるので、選手により高いレベルのフィードバックをすることができます。選手が本番で実力を発揮できるよう、選手の動き・本部船の動きをしっかりと観察し、その時に必要なモノや情報を選手に渡す・伝えることが大事です。

また、海上で選手と直接関わることができるのは支援艇メンバーのみであるため、前向きな声掛けで盛り上げていくことも大事な仕事です。日本一のサポートができるよう入念な準備をして本番に臨みます。



《得点班》

リーダー：池田

得点班は、情報をいち早く公開するため、支援艇からリアルタイムで情報を受け取り、正確かつ素早い計算が求められます。ひとつミスをしてしまうだけで他に支障をきたしてしまうため、少しのミスも許されません。インカレでは、艇数も多く班内に上級生が少ない状況で不安な気持ちも大きいですが、班内でしっかりと役割分担を行い、落ち着いた対応ができるよう入念に準備をして臨みたいと思います。全力でサポートできるよう頑張ります。

《スケジュール班》

リーダー：川野

スケジュール班は遠征計画部の延長線上にあります。当日の流れを細かく決め、遠征全体の指揮をとることが主な役割です。スケジュール班としても、遠征計画部としても一年間の集大成となります。1、2 マネの 3 人だけですが、70 人近くの部員が円滑に動けるよう、そして、部員が自分のやるべきことを無駄なストレスなくできるよう、サポートしていきたいと思います。

《スナイプ艇サポート》

リーダー：竹中

今年のスナイプチームは、とても一体感のあるチームです。リーダーである橋口選手を始め、4 年生の方々がいつも、とてもよく後輩のことを考えて下さります。また、三年生でレギュラーとなった西島・西山ペアや、クルーの都田・笹川は誰もが認める努力家です。選手の中にはレギュラーになれず悔しい思いを持つ人もいるかもしれませんが、そんなレギュラーだからこそ気持ちよく、一生懸命サポートしたいと思います！

インカレ当日は、船のサポートはもちろん、メンタル的なサポートを艇サポメンバーで頑張り、スナイプチームの一体感、チームとしての強さを活かしていきます！



《備品班》

リーダー：佐々木

備品係の仕事は、必要な備品を用意することです。とてもシンプルな仕事のように思えますが、その背景は結構熱いものだったりします。忘れ物したくない、という不安と戦いながら、平日にハーバーに行き何度も確認したり、足りないものは作ったり探したり、『主体性と思いやり』を持てば、できることはたくさんあると思っています。蒲郡でもこの言葉を忘れずに、できることを探してレギュラーに負けないくらい、全力を尽くしたいと思います！

《申告班》

リーダー：末永

申告班は選手が行う必要のある様々な手続きを、より効率的に、かつ抜け漏れがないようにするための係です。手続きに何か不備があると得点に悪影響を及ぼす可能性があるため、大会において 1 番シビアな役割かもしれません。今回申告リーダーを務めることになり、正直不安な気持ちでいっぱいです。しかしだからこそ、申告班の先輩にたくさん質問し、暇があれば申告のことばかり考えています。それに申告班は自分のやるべきことをきちんと自覚している信頼できるメンバーばかりです。本番では完璧なサポートを目指して、バースを走り回りたいと思います。

《470 艇サポート》

リーダー：福本

艇サポート、略して艇サポの役割は普段の練習では二人でする準備を手伝いより万全な状態でプレーできるようにお手伝いをすることです。艇サポには艀装や艇の整備を手伝うことはもちろんですが、緊張している選手がリラックスしてプレーできるように声かけをするという大切な役割があります。全日本インカレではいつもと異なる点ばかりなのでレギュラー選手たちが少しでもいつもの実力が出せるように臆せず声かけをし、良い雰囲気を出艇してもらえるように艇サポも一丸となって気合をいれて蒲郡に臨みます！また、蒲郡では強風が予想され、あつてはならないことですがトラブルによるハーバーバックがあるかもしれません。そんな時のために艇サポで打ち合わせをしておき、すぐに再出艇ができる体制を整えておくことが肝要です。全日本インカレでは選手が笑顔で出艇し笑顔で帰着することを目標に頑張るので艇サポの活躍にもご期待下さい！